

〔貞丈雜記神佛十六〕一九字と云事、臨兵鬪者、皆陣列在前と唱へながら、𠄎如此なる形を空中に書く也、是を九字を切ると云也、一字に一ッ宛印相あり、九字を切る時も、劔印とて、印を結て九字を切る也、是皆真言宗の習事也、真言宗の出家より傳を受けざれば用いた、すと云也、此九字、本は道家の法也、道家といふは、仙術とて、仙人の方を行ふ者なり、祈禱などをとする也、其道家の書に、抱朴子といふ書あり、其書に九字あり、臨兵鬪者皆陣列在前行とあり、是真言宗に借り用ふる成べし、武家にて九字を用る事もある故記之、又云、陰陽師は道家の方也、

一十字と云も、道家の法成べし、手の中に、指の先にて文字を書て、握りてゆけば、わざはひを除き、さいはひ有りと云、

天大名高位ノ人ニ向
龍海川舟橋ヲ虎廣野原深山ニ
王弓箭兵杖軍陣山命フ時書之、又囀ノ字ヲ
天大時大此大字大ヲ大書大ク、
龍大渡大ル大時大書大之大、
虎大向大フ大時大書大之大、
王大賊大夜大行大ノ大時大用大之大、
山大命大フ大時大書大之大、
又大囀大ノ大字大ヲ大書大、
勝大市大町大賣大買大諸大勝大、
是大病大人大之大家大ニ
鬼大覺大所大ヘ大行大、
水大身大不大淨大ノ大氣大ヲ大大大萬大悅大言大喜大、
書大、
勝大市大町大賣大買大諸大勝大、
是大病大人大之大家大ニ
鬼大覺大所大ヘ大行大、
水大身大不大淨大ノ大氣大ヲ大大大萬大悅大言大喜大、
書大、

右大秘事也とて、みだりに傳えずと云也、是も真言宗の出家の習事也、出家より傳を受ざれば用立すと云也、たとへ出家より傳を受たり共、何のゑるしもなく用立ぬ事也、

〔提醒紀談三〕符字

世に、揜。抬。揜。指。の四字を書して、怪我除の護符とす、その驗あること、人のゑるところなり、さて此符字の傳へ、一條ならず、或記に、寛永二年三月晦日に、將軍家狩したまふに、御鷹大なる鴈を捕りけり、その鴈の胸に、四の字あり、その文字は、裕稔稔稔と、かくの如くなり、實に不思議なることなりと見えたり、次にまた寛文八年に、紀州に住める鐵砲師吉川源五兵衛といふ人、江戸に居ける日、大宮鷹場の中、吉野村といふところにて、白き雉子を覘すまして打たれども中らず、さればやうやう、機檻にて捕へ得たり、その雉子の背に、揜。抬。揜。指。の文字あり、思ふに此文字こそ、定めて怪我除の符ならんかとて、角にこの字をゑるして、打試みるに、幾度打ども中らず、大久保西とい